

## 令和3年度 三好市立学校評価報告書

学校名( 三好市立山城中学校 )

校長名( 窪田 和弘 )

### 1 総括評価

評価分野	自己評価 (平均値)	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 学校経営及び学校運営に関する評価	2.7	感染症対策で制限の多い中、どのように教育活動を充実させていくか考え通した1年であった。職員や保護者が意見を出し合い、工夫をして、みんなで関わられた。	感染症対策を十分に行い、教育活動に取り組んでいた。地域の子もたちに対して魅力ある学校にしていってほしい。	それぞれの経験に応じた役割を意識し、学校運営を行う。コロナ禍での開かれた学校づくりを考える。
② 教育目標及び教育計画に関する評価	3.3	感染症対策を十分にとり、個々の行事や活動を精選することによって、目標とする教育効果を得ることができた。	生徒数減少に対応して、複数学年で一つの活動を行うなど、工夫ができています。	子どもが活躍できる場の設定、方法の教授、評価のサイクルを実践し成長を促す。
③ 主要な教育活動に関する評価	2.7	全体の中で、自分の意見をしっかりと伝える生徒が増えている。自尊感情を育てる取組を続けていかなければならない。	わかりやすい授業の展開に対してよく工夫がされている。ICT機器も十分に使いこなし、生徒が生き生きと学習できている。	コミュニケーション能力の更なる向上を目指し、対話によって考えを深めることができる生徒の育成を目指す。
④ 保護者及び地域との連携等に関する評価	2.2	保護者や地域の体制は協力的であったが、感染予防のため、校外での活動が十分にできなかった。	学校の様子を分かりやすく知らせることが、保護者や地域との連携のしやすさにつながる。	コミュニティスクールとしての活動を進める。
⑤ その他、上記以外に関する評価 (教職員の協働体制の確立)	2.7	報告・連絡・相談体制が十分確立されておらず、他者のしようとしていることが理解できずに、協力できない場面があった。	1年間の見通しを持った計画が必要である。	しっかりとした計画を立て、行き当たりばつたりの行事とならないようにする。

- (1) 評価基準については、次の通りとする。
- 評価基準 4＝達成度が 90～100 %  
 3＝達成度が 70～ 90 %  
 2＝達成度が 50～ 70 %  
 1＝達成度が 50% 未満

- (2) 総括評価表の「評価(平均値)」については、「2 分野別評価」の1～5の評価をそれぞれ平均(小数第1位)したものとす。
- (3) 総括評価の「評価分野」及び分野別評価の「評価項目」の「その他」については、各学校において必要事項を記入のうえ評価する。
- (4) 分野別評価の「自己評価結果の概要」欄については、特に評価が 4 及び 1 について記入する。
- (5) 総括評価及び分野別評価の「学校関係者評価の概要」欄は、学校関係者評価委員会において評価された結果をまとめたものを記入する。
- (6) 「次年度の改善策」の欄は学校評価委員会及び学校関係者評価委員会において協議された改善策をまとめたものを記入する。

[ 様式2-1 ]

2 分野別評価

(1) 学校経営及び学校運営に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 経営方針の明確化とその実践状況	3		特色ある教育が行われているという評価が86%で、昨年より5ポイント上がっている。	学校運営協議会の活用し、地域の特色を活かした活動を進める。
② 校務分掌分担の適正化と組織的な活動・運営状況	2			校務分掌の平準化を図り、時間外勤務を少なくするように努める。
③ 教職員研修体制の確立と実践状況	3			ICT機器の活用を更に推進する研修をとり入れる。
④ 教職員の資質向上に向けた取り組み状況	3		変化の激しい現代において、教職員がそれに対応できるような研修が必要である。	経験に応じて、それぞれのよさを出し合える場を設ける。
⑤ その他 (教職員の協働体制の確立)	3			報告・連絡・相談体制の徹底を図る。

(2) 教育目標及び教育計画に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 学校教育目標の具現化と実践状況	3		コロナ渦で工夫を凝らした活動ができています。今後も、生徒のため、できることを精一杯行っていきます。	各活動の目的を具体的に示す。
② ナンバーワン・スクールの具現化と実践状況	3		小規模校のよさが生かしている。	一人一人が輝ける場の設定を心がける。
③ ステップアップ・スクールの実践化とその成果の状況	4	それぞれの生徒が、役割を与えられ、いきいきと活動できた。		
④ 創意ある教育課程の編成と実施状況	4	制限の多い中、創意工夫して教育実践を行った。	工夫を凝らし、普段の活動に近いことができています。	郷土に誇りをもてる子どもの育成に努める。
⑤ 学校行事の精選・充実と成果の状況	3		学校の活動に参加しやすいと答えた保護者が77%と昨年度より6ポイント減っている。	行事の2割削減に努める。
⑥ その他 (教職員の協働体制の確立)	3			報告・連絡・相談体制の徹底を図る。

[ 様式2-2 ]

2 分野別評価 その2

(3) 主要な教育活動に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① わかる授業の実践とその成果の状況	3	授業がわかりやすいと答える生徒が94%と高い。	タブレットを活用しわかりやすい授業ができている。	タブレットを活用した事業実践に努める。
② 生徒指導の取り組みとその成果の状況	3	学校が楽しいと答えた生徒が91%と高い。	すぐには結果が出ないが、根気強く不登校対策に努める。	個に応じた対応と、諸機関の活用を進める。
③ 道徳教育及び人権教育に向けた取り組みとその成果の状況	3	思いやりや協力に関する項目について高評価する生徒が88%を超えている。	発表がよくできている。	生徒の考えを深める工夫を行う。
④ 健康・安全教育の取り組みとその成果の状況	3		感染防止対策に対する保護者の好評価が90%～100%である。	本校の立地条件にあった防災教育を充実させる。
⑤ 学力向上への取り組みとその成果の状況	2		学力がついていると評価した保護者が63%と少ない。	基礎学力の定着に努める。
⑥ その他 (教職員の協働体制の確立)	3			諸活動に関わらない教職員をなくす。

(4) 保護者及び地域との連携等に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 保護者・地域社会への情報発信及び学校開放等の取り組み状況	3		学校の様子がよくわかると答えた保護者が、85%と前年度より9ポイント下がっている。	ホームページの充実を図る。
② 地域行事やボランティア活動への参加状況	2			今年度も校外活動がやりにくかったが、少しずつできることを増やしていく。
③ PTA活動の活性化に向けた取り組み状況	2			コミュニティスクールを推進する。
④ 他校や異校種間との交流、連携強化への取り組み状況	2	今年度は交流ができなかった。		時期を考えたながら、他校との交流を実施していく。
⑤ 地域の人材や外部講師の活用状況	2		地域には様々な活動を行っている人たちがいる。積極的に活用してほしい。	学校運営協議会の活用を推進する。
⑥ その他 (教職員の協働体制の確立)	2			PTA活動の充実を図る。

[ 様式2-3 ]

2 分野別評価 その3

(5) その他に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 教育環境の安全管理及び整備状況	3		活動中にけががないよう十分に注意を払ってほしい。	日々の安全点検を行う。
② ICT等の教育機器の活用状況	3		どの授業でもよく活用できている。	タブレットの活用を更に進める。
③ 特別支援教育の取り組み状況(該当校のみ)	3		丁寧な取組を続けてほしい。	連絡帳を取り入れ、密な情報交換に努める。
④ 指定研究等の取り組み状況(該当校のみ)				
⑤ 部活動の活性化に向けた取り組み状況(中学校のみ)	2	部活動に対する積極的な取組は97%の生徒ができているが、運動の習慣は60%の生徒しか定着していない。	人数が減少した中で維持が難しい。何か方策が必要。	目標をもった部活動が実践できるようにする。
⑥ その他 (教職員の協働体制の確立)	2			